

県立所沢中央高等学校の実践／第2学年：球技領域・ゴール型／授業者：中曾根 健

(3) 指導と評価の計画（12時間扱い） 本時は○印 9／12時

単元の目標		知識及び技能												授業づくりのポイント		
単元の目標		思考力、判断力、表現力等														
単元の目標		学びに向かう力、人間力等														
時		1	2	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	授業づくりのポイント		
学習の流れ	0	集合、挨拶、健康観察、準備運動、補強運動、ドリブルランニング、本時のねらいと内容の確認、用具の準備												・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ・履修状況や既習技能の確認を行い、生徒の実態に応じた指導を行う。 ・「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の内容の関連を図り、深い学びにつなげるとともに、けがを防止していく。		
	10	○オリエンテーション ・特性 ・目標 ・約束事  ○履修状況の確認  ○健康・安全上の留意事項  ○実態把握（基本的なボール操作：ドリブル、パス）	○既習状況の確認（ドリブル、パス、リフティング）  ○ボールタッチ  ○ドリブル、ターン ・ドリブルリレー  ○パス ・インサイドパス	男女混合グループ ボールタッチ（イン・アウト）20秒 リフティング30秒 8の字ドリブル30秒 計測し記録を取る												
	20															
	30															
	40															
50		整理体操 ・ 健康観察 ・ 本時の振り返りとまとめ ・ 挨拶、解散														
評価機会	知									①			②	観察・学習カード 観察 観察・学習カード 観察		
	技					①	③	②		②	③		総括的な評価			
	思			①	②							②				
	態				②				③			①				
単元の評価規準	知	①局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習方法があることについて言ったり、書き出したりしている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて言ったり、書き出したりしている。														
	技	①シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。 ②味方が作り出した空間にパスを送ることができる。 ③防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。														
	思	①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見することができる。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を身に付けている。														
	態	①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③フェアなプレイを大切にしようとしている。														